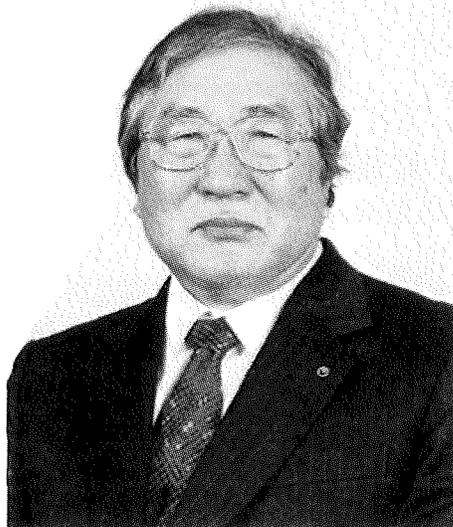


# 会長就任にあたって

社団法人 電気通信協会  
会長 宮津 純一郎



この度、電気通信協会会長前田光治様の後任として私が会長職を引き継ぐことになりました。

当協会は、昭和13年に電気通信事業の振興に寄与することを目的に設立された公益法人で、設立以来、まもなく70周年を迎える伝統ある団体です。この間、電話事業の黎明期から戦後の復興、電話の積滞解消、デジタル化の進展、そしてブロードバンド時代と日本の電気通信事業の歴史とともに歩んできたと言っても過言ではありません。とりわけ、日本の技術立国のため、電気通信技術の普及・啓蒙に力を注ぎ、幾多の産業育成にも貢献してまいりました。日本が主要先進国の一員となつてからは、国際機関による技術の標準化や開発途上国への支援等、国際協力にも力を入れた結果、各国から感謝され、現在もいろいろな形で国際交流を続けております。

1999年にNTTの再編成が行われた頃、世界はインターネット時代へと変化する兆しを見せ始め、日本では世界初のモバイル・インターネット・アクセスサービスである「iモード」が爆発的に普及し、世界の電気通信事業者や関連事業者からこのビジネスモデルが注目され、世界においてICTが主役となる新時代が訪れることを実感させました。とりわけ、紙情報が電子データ化されるにいたっては、物とお金が主役で情報が脇役であったビジネスモデルが陳腐化し、情報を大きく取り入れて資金と物を活用する新たなビジネスモデルの構築を余儀なくさせるようになりました。

電気通信事業もインフラ整備からサービス開発へと事業の内容を変化させるととも

に、デジタル化したネットワークのメリットを享受できる体制作りが求められるようになりました。設備投資面におきましては、それまでのハード中心のインフラづくりからソフトが大きく係わったインフラづくりへと変化が起き、ソフト技術者の育成が課題として浮かび上がってきました。その後起きた ICT バブルの崩壊は、ICT 普及に少なからず影響を及ぼしましたがトレンドとしてはいささかもゆるぎがありません。

21世紀に入って、ビジネス界のみならず各方面から ICT のさらなる進展が求められるようになるほか、自然災害の多い日本におきましては、国の神経網にあたりますネットワークをより信頼性のあるものにすることは、国民から電気通信事業者に付託された責務といえます。ブロードバンド時代のインフラの主役は光ファイバー網であることは明白ですが、同時に災害に強いネットワークでもありますので、簡単ではありませんが双方の要求に応えられる光ファイバー網の構築を急ぐ必要があります。

電気通信協会は、諸先輩が我が国の電気通信の普及・啓蒙と電気通信事業界の健全な発展を願って、協会設立時の精神と時代に即した公益活動を行って斯界の発展に寄与してまいりました。私も、電気通信協会の会員として、このような高邁な精神に立脚した活動を長く支えてきたと自負しております。21世紀に入って、電気通信事業の果たすべき役割は、人類が抱える諸問題の解決にも力を発揮することが求められるようになってまいりました。今後は、電気通信協会の会長として、役職員と一緒にその重責を果たしてまいる所存ですので、会員の皆様方のご支援とご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。